

# 活用に当たって

本「性教育の手引」は、学校教育における性教育を積極的に推進するために、札幌市の「今日的課題」も踏まえて作成した。札幌市では、平成12年2月に「性に関する指導の手引（改訂版）」を小中学校向けに作成しているが、今回の手引では、幼児児童生徒の発達段階等を踏まえながら、各校種に関する性教育の目標や指導内容の理解も深めることができるよう、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・養護学校における指導事項や指導計画例を示した。

本市においては、近年、10代の人工妊娠中絶率が全国平均を大きく上回るとの調査結果が示され、また、若年層の性感染症罹患状況なども高くなっている。さらに、性の逸脱行動などが問題となっており、性教育の必要性がますます強調されている。各学校・園（以下「各学校」という。）においては、性教育の重要性を改めて認識し、幼児児童生徒の発達段階や実態に応じた指導計画を作成し、授業実践を進める上で、その資料として、以下の点を踏まえながら、本手引を活用していただきたい。

1 各学校における性教育は、幼児児童生徒の発達段階に応じ、学習指導要領等に基づいて、体育科、保健体育科、道徳、特別活動などを中心に学校の教育活動全体を通じて行うことが必要である。また、各教科等との関連を十分に配慮しながら、計画的に指導を行うことが望まれる。

2 性教育では、関連する各教科等において、性に関する科学的知識を学ばせるとともに、道徳や特別活動等において人間尊重の精神に基づいて幼児児童生徒に健全な異性観をもたせ、これに基づいた望ましい倫理観や行動を身に付けさせることが重要である。

3 第 章「総論」では、学校における性教育の意義と基本的な考え方や目標などを示した。

第 章「発達段階に応じた性教育の目標及び指導内容」では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・養護学校における性教育の目標と指導内容を掲載した。

第 章「指導計画」では、第 章の目標と指導内容から、発達段階に応じた指導事項を洗い出し、各発達段階や各校種で必要な指導事項を示し、指導計画例を作成した。

第 章「指導事例」では、指導計画例の一部から指導事例として授業展開を具体的に示している。ワークシートや資料なども詳しく紹介し、活用しやすいように努めた。

第 章「資料」では、本市保健福祉局によるデータ、本市教委の研究委託事業における「中・高校生の性に関する意識調査」の結果、北海道警察から提供を受けたデータを掲載し、本市等における子供の実態を把握できるようにした。